

一般質問



吉原 議員

質問

一、市道は、本来市が改良や維持管理を行うべきだが、池成地区では自分たちでできる範囲で、集落のみんなが力を合わせ、通行しやすい道直しに取り組んでいる。だが、本格的な設計や土木工事が必要とするところは、市で行って頂かなくてはなりません。両市道の接続する地点は急勾配で、バスは進入できず狭い道をスイッチバックしなければならない。本市の重要施策である体験型旅行事業を推進する上でも、交通の安全性は最優先である。早急な改良を強く要望するが、その対応を伺いたい。

二、(1)旧西肥バスターミナル跡地活用について、市長は12月定例会の一般質問で「早い時期に何らかの活用を見出すように、積極的に取り組んでまいります」と答弁をされたが、その進捗状況を聴きたい。

(2)西肥バスとしては、3台分の駐車場と乗務員の休憩所の確保が必要だとのことだが、市は積極的に協力すべきと考えているのかお尋ねする。

他に県原子力防災訓練における避難受け入れ先自治体との協議等についてなどを質問しました。

一、市道高野栢木線と市道橋の本上
二、旧西肥バスターミナルの今後の
利活用及び解体についての協議の
進捗状況について

答弁

一、御指摘の接続部の改良については、地区からの要望もありましたので、改良できるかの検討を行っております。地形的に非常に困難なところではありますが、改良可能なルートのためたき台をつくって、地区にお示しし協議をさせて頂きたいと考えています。

二、(1)西肥バスとしては、利用する計画はないとのことですが、現在、駐車スペースや乗務員の休憩所の確保について社内で検討中とのことですが、市も現段階では、土地、建物を取得する計画はありませんので、民間による売買によって跡地の活用をお願いしたいと考えております。

一日も早く解決がなされて、有効活用につなぐということについては引き続き努力してまいります。

(2)西肥バスが、土地を売却して頂くことが前提条件だと捉えています。市もこのことについては、できるだけの協力や対応をしたいと考えています。

一般質問



久枝 議員

質問

一、(1)平成28年度から5年間で交付税が10億円削減される。壱岐市でも20億円が削減されることから、若手職員で壱岐市歳入確保対策会議を組織し、歳入確保策などを市長に提案している。本市では、歳入確保等に関して風通しのよい意見を取り入れる体制づくりはとられているのか。

(2)28年度には、別に10億円の一般財源の不足も見込まれている。市民サービスを落とすことなく、子どもを育てやすく、仕事やスポーツ施設にも恵まれた、そのような住みよい松浦をつくるためにどのような施策を進めていくのか。

二、(1)鷹島大橋架橋前のカーフェリーへの補助金交付額は幾らか。

(2)補助金を安く設定することに関して国や県と交渉したことはあるか。

(3)自動車航送運賃を安くすれば乗車率はよくなり、補助金額も少なくなるのではないか。

(4)大橋が架かる前の利用台数は幾らか。

(5)国や県と協議する必要があると思うがどうか。

(6)総合的な支援体制とはどんな意味か。

一、交付税10億円削減に対する歳入
確保対策について
二、鷹島両航路の車賃を2分の1、
薄利多売にして利用率を伸ばすこ
とについて

答弁

一、(1)職員の提案制度等を有効に活用し、効果があるものであれば全庁的な取り組みを強化していきたい。

(2)総合計画に掲げる「次代をはぐくむ産業創造都市まつうら」の実現に向けて、活力と希望のあるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

二、(1)架橋前の補助金額は、阿翁御厨航路には、国4千450万円、県150万円、市700万円が、殿之浦今福航路には、架橋以前は黒字でしたので、県150万円と市の飛島寄港補助金290万円が交付されています。

(2)殿之浦今福航路は、架橋後に赤字が膨大になったことから、国庫補助指定の働きかけを行いました。

(3)現行料金が安く設定されており、国の基準により現状では困難です。

(4)利用台数は、20年度で4万9千678台、架橋後の直近で4千271台となっています。

(5)赤字航路について、フェリー小型化や航路再編の協議を進めています。

(6)福祉部門の通院運賃補助等の支援事業や高校通学補助、国の離島住民運賃割引制度等を総合的に活用して支援を行うということです。